

令和元年度 第1回 川口市介護保険運営協議会議事録

1 開催日時

令和元年7月19日（金） 午後1時30分から午後2時35分

2 開催場所

市役所 議会棟2階 第1委員会室

3 出席者（委員総数14名、出席委員12名）

【出席委員】 吉田委員、石川委員、渡辺委員、小寺委員、畑中委員
山本委員、梅田委員、高木委員、内田委員、榎本委員
長谷部委員、山田委員

【事務局並びに関係職員】

福祉部長、介護保険課長、長寿支援課長

【事務局補助】

介護保険課職員、長寿支援課職員

4 議事及び次第

- ・開 会
- ・委嘱書交付
- ・副市長挨拶
- ・会長の選出
- ・議 題

審議事項

（1）第8期計画策定に向けた調査項目について
報告事項

- （1）地域密着型サービスの公募について
- （2）特別養護老人ホームの整備について
- （3）介護保険サービス事業所数の推移について
- （4）第1号被保険者の介護保険料軽減強化について
- （5）介護サービス事業所及び介護従事者へのアンケート調査結果について
- （6）介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務委託先について

その他

- ・副会長挨拶
- ・閉 会

5 議事録署名人 山本委員、内田委員

6 傍聴人の数 0人

7 会議の概要

委嘱書の交付、副市長挨拶、委員紹介、事務局紹介、会長選出の後、事務局により本日の委員出席者数について報告が行われ、条例に基づき会長が議長となり議事が進行された。

会長の指名により、今回の議事録署名人は、山本委員、内田委員となった。事務局による各議事の説明の後、次の質疑応答がなされた。

【質疑応答の概要】

「審議事項」

(1) 第8期計画策定に向けた調査項目について

資料1に基づき、事務局より説明が行われた。

委員 市の独自調査項目として認知症施策関連事項を行いたいとのことであるが、認知症については、認知症と診断されたかたとあわせて、少し様子が変わり、認知症になってきたかな、というような診断を受ける前のかたについても毎年増えてきている実感がある。

認知症を発症したかたが利用できる介護保険サービスがどちらかと言うと家族の支援を軸にしている状況であり、認知症と診断されていないから健康者という扱いが続けられるかということと難しいと感じる。

そのような中、地域の中で認知症になりかけたかたを支えていくということがこれから重要視されていくのではないかと考える。

これまでの認知症施策では、認知症になってからどうするか、認知症をどうやって発見するか、といったところが注目されていたと思うが、潜在的な認知症のかたについて、市独自の調査や調査に基づく施策によって支えていけるのであれば、是非調査を推進してほしい。

委員 現在、高齢者調査を実施しているため各家庭を訪問しており、各調査員から、認知症とみられるかたが多くなったという意見が出ている。また、家族のかたが自分の家族が認知症になったと思っていない、本人も認知症になったと思っていないという状況が見られるという声も聞くので、認知症施策関連事項を調査項目として入れるのは賛成である。

委員 核家族や単身高齢者が増えており、引きこもりも増えている状況である。そうした状況は外から見えず、地域がなかなか把握できない。民生委員さんであれば様々な地域の情報を持っていると思うが、守秘義務により公開できない。もっと横断的に実態が分かることが大事だと思う。

委員 民生委員に守秘義務は課せられているが、民生委員同士の意見交換などを通じて地域を見守っていくものだと思う。また、いろいろな調査等で訪問する際に、生活状況を知り、それを家族のかたとお話しすることで問題の認識

や解決など、次につながることを大事だと思う。

委員 歌や教室など様々な活動を通じて、認知症など予防することも大事だと思う。

事務局 認知症や引きこもりといった視点が今後も出てくると思うので、市としても認識を深めていかななくてはならないと感じており、今後調査などを通じて実態を把握していきたいと思う。

なお、調査については7月23日に国からの説明会が開催され、調査項目の具体的な内容が示される予定であり、そのうえで今後調査項目を検討していく。

委員 川口市として、今後の認知症の推移は出ているか。

事務局 国の推計と一致するものであり、7人に1人といった推計手法を本市に当てはめることで算出する。

議長 それでは、審議事項の(1)「第8期計画策定に向けた調査項目について」は、以上でよろしいか。

各委員 異議なし。

「報告事項」

- (1) 地域密着型サービスの公募について
- (2) 特別養護老人ホームの整備について
- (3) 介護保険サービス事業所数の推移について

資料2、資料3、資料4に基づき、事務局より一括説明が行われた。

委員 前回議事録中、審議事項(1)「特別養護老人ホーム整備事業者の選定について」において、『協力歯科医療機関が市外とあるが、市内の歯科医ではできないような何か特別な検診などを予定しているのか』に対し『以前より連携を図っている市外の歯科医療機関に協力機関になってもらうとのことである。特別なことを行う訳ではない』とある。

市歯科医師会でも訪問に力を入れている。市外医療機関とはどこなのか。

事務局 市外医療機関名については、現在資料がないため回答できない。

なお、採択するにあたっては市としてもできるだけ市内医療機関の活用を図ってもらいたいと考えており、採点基準に市内市外の差を設けているところである。

委員 医療機関には様々あるので、見極めてもらいたい。

委員 施設の整備について資料が出されたが、現場の実感として、人員の確保が難しいのか、採算性が困難なのかどちらが大きな問題なのか。

委員 両方の要因が当てはまると思う。介護保険制度上、サービスの報酬が3年に1度更新され、その都度料金が下がっており、10年前に比べると売り上げベースで2割程度下がっている。そうした中で人件費を確保することが難しく、既存の施設を維持することに精一杯であり、新たに施設を増やすことに慎重な状況である。

報酬についてはこれ以上下がらないだろうと楽観的に見ているが、事業所が淘汰される可能性もあり、総数が減ることも考えられる。

委員 今後認知症のかたが増える予測の中、受け皿が無いのではと心配している。問題となっているところをテコ入れしないと募集をしても応募してこないのではと思う。

委員 地域密着型については、小規模な施設が中心となるため、ある程度人数を受け入れて事業を維持しているが、軌道にのるまでにリスクが様々あり、少しでも利用者が少ないと一気に経営が傾くといった状況にさらされている。これは市の施策でどうこうなるものではなく、法の規定に基づき事業者が考えていかなければならない。

また、今までの利用方法を改めていくべきだというニュアンスを国が言うようになった。例えばデイサービスにおいては、利用しすぎではないか、という指摘がなされるなど、以前はレスパイトという考えから、家族の介護負担軽減の効果的な手段の一つとしてデイサービスの活用が言われたが、最近ではレスパイトを目的としたデイサービスはけしからんということも言われる。デイサービスによって少しでも介護度を良くしていくことにつながらなければ、利用は抑えるべきではないかという風潮に変わってきている。その背景にあるのは、これ以上デイサービスの箱を増やして介護財政を逼迫させてもらっては困るということが考えられる。

事業者としても、そうしたことを意識している。

議長 それでは、報告事項の(1)から(3)は、以上でよろしいか。

各委員 異議なし。

「報告事項」

(4) 第1号被保険者の介護保険料軽減強化について

資料5に基づき、事務局より説明が行われた。

議 長　それでは、報告事項の（４）「第１号被保険者の介護保険料軽減強化について」は、以上でよろしいか。

各委員　異議なし。

「報告事項」

（５）介護サービス事業所及び介護従事者へのアンケート調査結果について

資料６に基づき、事務局より説明が行われた。

委 員　資料３８ページ、問１８の回答欄中「賃金の大幅アップ」とあるが、具体的な金額は尋ねたのか。

事務局　具体的な金額は調査しておりません。

議 長　それでは、報告事項の（５）「介護サービス事業所及び介護従事者へのアンケート調査結果について」は、以上でよろしいか。

各委員　異議なし。

「報告事項」

（６）介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務委託先について

資料７に基づき、事務局より説明が行われた。

委 員　委託事業所数は増えているのか。

事務局　平成２９年度１７１件、平成３０年度１８３件、令和元年度１９８件である。

議 長　それでは、報告事項の（６）「介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務委託先について」は、以上でよろしいか。

各委員　異議なし。

「その他」

委員 国、県に囚われることなく川口市独自の取り組みを検討してほしい。

委員 市では昨年度、認定ヘルパー養成講座を開催したが、現在どのくらいのかたが従事しているのか。

事務局 現在2名のかたが事業所に登録しており、うち1名が認定ヘルパーとして従事している。

事務局 次回の開催は11月上旬を予定しており、年度内にもう1回の開催を予定している。

議長 令和元年度第1回川口市介護保険運営協議会を終了する。
(会議終了 午後2時35分)